

平成 30 年 9 月 3 日  
観測部  
地球環境・海洋部

## 夏（6～8月）の天候

（梅雨入り・明けの確定値を含む）

2018年（平成30年）夏（6～8月）の日本の天候は、東・西日本は記録的な高温となりました。北日本日本海側と西日本太平洋側および沖縄・奄美は降水量がかなり多くなりました。

2018年（平成30年）夏（6～8）月の天候の特徴は以下のとおりです。

東・西日本は、記録的な高温となった太平洋高気圧とチベット高気圧の張り出しがともに強く、晴れて気温が顕著に上昇する日が多かったため、東・西日本は夏の平均気温がかなり高かった。夏の平均気温は東日本で+1.7 と 1946年の統計開始以降で最も高くなり、全国の気象官署153地点のうち48地点で高い方から1位の値を記録した(タイを含む)。7月23日には、熊谷（埼玉県）で日最高気温41.1 を記録して歴代全国1位となった。

北日本日本海側と西日本太平洋側および沖縄・奄美は、降水量がかなり多かった北日本日本海側は梅雨前線や秋雨前線の影響で、西日本太平洋側と沖縄・奄美は台風や梅雨前線の影響で記録的な大雨の日があったため、夏の降水量がかなり多かった。沖縄・奄美の夏の降水量は、1946年の統計開始以降で最も多くなった。

「平成30年7月豪雨」など、全国各地で大雨が発生した6月終わりから7月はじめにかけて、活動の活発な梅雨前線や台風第7号の影響を受けて西日本を中心に全国の広い範囲で記録的な大雨となり、「平成30年7月豪雨」が発生した。このほかにも、台風や前線などにより全国各地で大雨が発生した。

別紙（概況、統計値、梅雨入り・明けの確定値等）[PDF形式:1836KB]

[https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/stat/tenko180608\\_besshi.pdf](https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/stat/tenko180608_besshi.pdf)

問合せ先：観測部 計画課情報管理室 担当 青木(観測値や記録について)  
電話 03-3212-8341 (内線 4154) FAX 03-3217-3615  
地球環境・海洋部 気候情報課 担当 竹川(天候の解説、梅雨入り・明けについて)  
電話 03-3212-8341 (内線 3154) FAX 03-3211-8406